

夢に挑戦する相産づくりを目指して



○8月21日(土)・22日(日)に兵庫県内の教育関係者の夏季研修会が鳥取の大山(だいせん)の研修所

(山の中腹)でありました。下界は樹海で景色も申し分ないところでした。私はそこで大山伽羅(きやら)木を初めて見ました。伏流水で湧き上がってきた水を飲み、四季の移り変わりのビデオも見せていただきました。冬は雪が1メートルを越す地です。泊まったところは大山ロイヤルホテルでした。社会教育(塾・福祉施設等)、学校教育(幼児教育、小学・中学・高校)、臨時講師・現役・OBを含め、総勢43名の

研修でした。テーマ「子どもの幸せのために～学校における子どもの最大の教育環境は教師である」をめぐる、昼間の研修(2日間～全体・班別)、午後9時からの班別研修と熱い語らいが展開されました。バスの中でも熱心な討議が続きました。海外メンバーで、日本で英語を教えている先生も参加していました。全県下から多種多様の教育関係の職種の方々が集まったので、賑やかこの上ないものでした。

のでした。

<写真上;大山、写真下2枚;小泉八雲旧居>



その後、島根県松江市に下り、松江城散策・堀川めぐり・武家屋敷めぐりを希望別で回りました。私は小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)に興味があったので、小泉八雲記念館・小泉八雲旧居を中心に武家屋敷めぐりを希望しました。ハーン生存当時の姿に復元された旧居の庭の広さと美しさに驚きました。観光客が絶えないとのことでした。

写真の小泉八雲の旧居の庭と家は昭和58(1983)年ハーンが住んでいた当時のままに修復をしたものです。この家の当主であった根岸磐井(いらい)さんは「よいものがあればどんなに片田舎でも必ず人が訪れてくる事を知り、我家を旧居として名所にすれば観光客が多く来て松江も有名になり豊かになる」(義娘;根岸道子さんの話)と考え、その考えのもとに道子さんのご主人・啓二さんが丸2年かかり修復したものです。すばらしい庭の造りでした。「私はこの家を好きになりすぎた」(『知られざる日本の面影』ハーン著)と書いている、この旧居は松江時代約1年3ヶ月の間の6

ヶ月のみ、後に妻になった小泉セツさんと住むことになりました。私はこれでは広すぎて冬は寒いと思いましたが、ハーンも松江の冬の寒さはこたえたようです。熊本の第五高等中学校からの誘い（給料は島根県尋常中学校の2倍）に迷った末、転勤しました。セツさんとの正式結婚を考えていたハーンは経済的な安定を考えたからです。しかし、熊本の町や学校の気風にはなかなかなじめなかったとハーンは言っています。また、



磐井さんの念願だった記念館は、「完成を見る事ができず残念」との言葉を残して60歳で磐井さんが急逝された昭和8(1933)年に完成しました。ドイツのゲーテ記念館を真似て作った洋館でした。

ところでハーンはその後、3年間五高に勤め、その後、神戸クロニクル社に入社。神戸になじめず、東京帝国大学文科大学の英文学講師として迎えられました。天下の名講義で超人気の講座でした。その後、8年間東大の講師を務め、早稲田大学の講師に就任し『怪談』を出版しました。早稲田の講師に就いた54才のその年の9月26日狭心症で亡くなりました。日本にいたのは約14年間でしたが、松江を一番愛しました。東大のハーンの後任講師は夏目漱石でした。ハーンは学生たちに常に、「日本人は日本人らしくする」ことの大切さを説いていました。そのために漱石がカイゼルひげを生やし、イギリス流の服を着て教壇に立ったときは学生から総スカンを食らいました。しかし、そこが漱石のすごいところですが、やはり名講義で人気を博することになりました。

ここには書ききれませんが、ハーンの一生を記念館で買ってきた本で追ってみました。小さい頃から怪談に興味があり、大きな館で一人寝ていたとき、夜、よくお化けにおびえていました。また、ある昼間は、姉を追いかけていくと振り向いた姉は「のっぺらぼう」で消えてしまったという実体験をしています。アメリカ・ニューオリンズで開催された万国産業綿花博覧会で日本にあこがれ、セツさんと一緒に住むようになるとセツさんが伝承話をしてくれ、それが伝統ある松江ともあい、ハーンの怪談好きがこうじることとなります。

今、妖怪話ではNHKの「ゲゲゲの女房」で、水木しげるさんが有名ですね。水木さんは今回の研修場所に近い鳥取県境港市出身です。境港市には水木しげる記念館があり、通称「水木しげるロード」があります。それで街おこしをしました。

相生市はペーロンで有名です。私はこんな夢が相生市にあります。（仮称）ペーロン記念博物館を作り、紀元前約300年前の屈原から始まり、江戸時代・1655年に長崎に取り入れられ、長崎の造船

工が大正時代・1922年相生にもたらしたというペーロンの歴史や、現在の発展に焦点を当てた常設展示館ができないものかと思います。そして、常時、観光客が訪れる街になれば、観光の街としての相生市は発展するのではないのでしょうか。そのためには人物に焦点を当てた展示が必要と考えています。